

やさかだより No. 100

八坂地域づくり協議会

<https://www.shinshu-yasaka.com> 2024年(令和6年)1月1日



1月号の記事	
新年のご挨拶	2
地域づくり協議会の活動から	3、4
地域活動	5
日赤八坂分団	6
たけのこ保育園	6
八坂小中学校前期課程	7
八坂小中学校後期課程	8
コミュニティスクール	8、9
山留の風	10
文化祭、秋まつり	11
公民館	12
やさかだより 100号目発行	13
話題の八坂人	14

八坂地区の人口: 715人
(男356人・女359人)
八坂地区の世帯: 351世帯
(令和5年12月1日現在)

新年のご挨拶



八坂地域づくり
協議会長

北澤 伸夫

新年あけましておめでとうござい
す。年頭にあたり、新年のご挨拶を申
しあげます。

日頃は、当協議会の活動にご支援ご
協力を賜り、心より感謝申し上げます。
昨年は長年続いた新型コロナウイルス感
染症も、5類に移行されたことでイベ
ント等への制約も緩和され、以前の活
動に近い形に戻る事ができました。人
々が集まり、気軽に話をしたり行動を
共にすることが可能になり、コミュニ
ティーの重要性をあらためて、再認識
する年になりました。協議会関係の事
業に積極的にご参加ご協力いただいた
皆様にあらためて感謝申し上げます。

協議会関係の主な活動状況をご報告
します。

陳情活動につきましては道路関係、砂
防関係、行政関係の各省庁へ、懸案事
項の早期実現と地域の活性化につい
て、要望を行いました。主な内容は、
主要地方道の改良、犀川護岸の整備、
移住・定住促進住宅の建設等を要望
しました。

八坂ビューポイント整備は、県道沿い
の花植えをボランティアの参加もいた
だき実施することができました。



八坂ふれあい運動会は地域の皆さ
ん・学校関係者・保育園関係者が参
加し、地域を挙げての運動会となり
ました。

8月の大町やまびこまつりにも、4
年振りの参加で盛り上がりました。
地域間交流事業である、秋まつりは、
文化祭とコラボする形で実施し、約
200名の住民の皆様がご参加いた
だき、夜店の出店もあり、余興・抽選
会・花火等を楽しみ、交流を深める
ことが出来ました。

また、学校関係では、令和5年4月
から県下初の施設分離型小中一貫校
の義務教育学校がスタートしまし
た。地域の特色を活かした一貫校の
活動も随所に見られ、子どもの成長
にさらに効果が図られるよう期待し
たいと思います。

八坂地区も人口減少、少子高齢化
が進む現状ではありますが、これか
ら住民の皆さんが安心して暮ら
せ、八坂に誇りを持てるよう取り組
んでまいります。

本年が、皆様にとりまして良き年
となります様ご祈念申し上げ、新年
のご挨拶いたします。

新年のご挨拶



大町市八坂支所長
海川 仁志

新年あけましておめでとうござ
います。

年頭にあたり、新春のご挨拶
を申し上げます。

日頃は市が行う様々な事業
の推進にご理解とご協力を賜
り、厚く御礼申し上げます。

また、地域の活動に対し、自
主的かつ積極的な取り組み
をいただき、心より感謝を申し
上げます。

さて、昨年4月の着任から早
いもので9か月の歳月が流れ、
地域の多くの皆様方から、心の
こもった御支援をたくさんいた
だき、無事に年を越すことがで
きました。

これもひとえに、各分野でご
活躍をされております諸先輩
方からのご指導ご鞭撻の賜物
であると重ねて感謝を申し上げ、
また地域を見守り、より良
き発展を遂げるための期待を
感じさせていただいている次第
でございます。

伝統ある八坂地域で行政
に携わる職員の一員として、
この地の歴史や風土、慣習や
独自の文化、またその生い立
ちをしっかりと理解し、先人
が大切に築き上げてきた財産
を、以降にも確実に伝承して
いきたいと考えております。

当市の自治会加入率は
年々低下し、本年度の平均加
入率は66%となつてしま
いましたが、当八坂地域は昨
年度より4ポイントアップし、
95%となりました。

この地域が持つ、特色ある
コミュニケーション方法やそ
の能力が大町市の模範とな
り、加入率の向上に寄与しま
すよう、今後もなお一層の連
携、連帯、団結にご期待を申
し上げます。

結びに、八坂地域の皆様方
お一人お一人が、本年も楽
しく安心して幸せに過ごせ
ることをお祈り申し上げ、
新年のご挨拶とさせていただきます。



地域づくり協議会の活動から

	区 分	内 容 等
11/7	「犀川砂防事務所・大町建設事務所」要望活動	・ 正副会長、奥村県議同行
11/9	八坂太陽光発電施設現場踏査	・ 城南エナジー・藤巻建設
11/19	八坂ビューポイント整備「唐花見湿原周辺整備」	・ 降雪のため中止
11/21	第9回八坂地域組織見直し検討部会	・ 最終報告書（案）について
11/27	「大町市長」要望活動	・ 北澤協議会長
12/1	地域支え合い事業「おでかけサロン」	・ 野平南・野平中集落 7名参加 (野平生活改善センター)
12/19	第10回八坂地域組織見直し検討部会	・ 北澤会長へ最終報告書提出

要望活動 11月7日（火）犀川砂防事務所・大町建設事務所

要望活動 11月27日（月）大町市長

11月7日（火）、犀川砂防事務所、大町県建設事務所に対して陳情活動をしました。当日は正副会長の他に、奥村県議も同行していただきました。

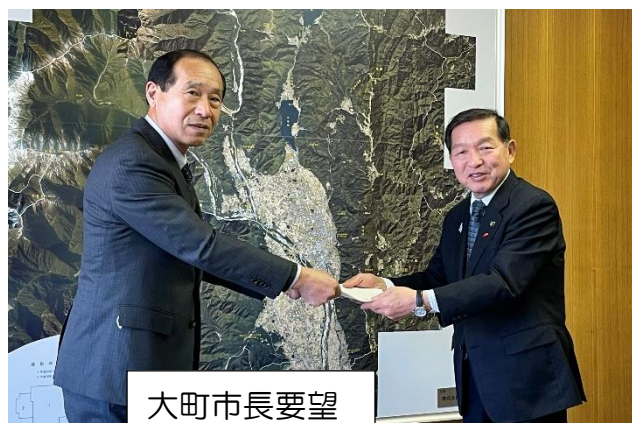
また11月27日（月）は北澤伸夫協議会長が大町市長への要望活動を行いました。



大町建設事務所



犀川砂防事務所



大町市長要望



奥村県議にも同行していただきました。

11月9日（木）八坂太陽光発電施設合同現地踏査



11月9日（木）、協定に基づく合同現地踏査を実施しました。明野地区にある発電施設を協議会役員と業者、県、市の合同で発電設備の状況や排水施設等が適切に管理されているか確認を行い、気が付いたことや要望等を業者に伝えました。

◎11月19日（日）八坂ビューポイント整備「唐花見湿原周辺整備」は、突然の降雪のため急遽、中止としました。参加を予定されていた皆さま大変申し訳ありませんでした。作業については来年度春に再度計画します。

地域支え合い事業「おでかけサロン」

野平南・野平中集落（野平生活改善センター）

12月1日（金）野平生活改善センターにて地域支え合い事業「おでかけサロン」を開催しました。今回は野平南、野平中の皆さんに集まっていただきました。前回開催の地志原、野平北だけでなく、野平南と野平中でも開催してほしいと要望があり今回の開催となりました。体操教室「川手 and い・和い」を卒業された方々もご参加いただき久しぶりにお会いしてお菓子を食べながらおしゃべりしたり、新聞紙でエコバッグづくりをしたり楽しい時間を過ごしました。

いくらご近所に住まわれていても年を重ねるとなかなか交流することが困難となっていくます。地域支え合い事業「おでかけサロン」は今後も地域づくり協議会、八坂支所民生係、八坂総合福祉センター「みさか」の三者で協力し、高齢者の方々に寄り添い皆様の交流の場づくりを応援していきます。



野平自治振興会バス旅行



10月22日(日)野平自治振興会は、大町市の「子ども体験学習号」を活用してバス旅行を企画しサントリー工場見学に行ってきました。当日は秋晴れの気候でお出かけ日和でした。地域の方、27名の参加でバスに乗り込むところから皆さんのワクワク感が伝わりました。

サントリー工場は駐車場から少し離れていますが、整備された庭を眺め、おしゃべりしながら楽しく歩くことができました。工場内は案内や説明をしていた



最後にアルプスの山々が白くなった景色をバックにテラスから集合写真を撮っていただきました。

お昼は生坂に回っていただき、「やまなみ荘」で食事を楽しみながら歓談しました。子ども達はお風呂も楽しみにしていたようで、早々にタオルをもって出かけて行きました。お手軽なコースのバス旅行でしたが、コロナ後、久しぶりの開催とあって皆さんには大好評のバス旅行でした。参加された方、役員の方お疲れ様でした。

大平自治振興会しめ縄・そば打ち・おやき講習会



大平自治振興会では12月9日、しめ縄・そば・おやきの講習会が行われました。今年は暖冬ということもあり、しめ縄講習会は屋外の日当たりの良い場所にブルーシートを敷いて行いました。初めて参加の方、熟練の方、講師の方、子供達と一緒に、地域の方、楽しくしめ縄やおやきを、ワイワイガヤガヤ言いながら作りました。今年も良いお正月が迎えられそうです。



ふるさと体験館の屋内では、蕎麦打ちとおやきを作りました。体験館の囲炉裏に久しぶりに火を入れ、地域の子供達と一緒に灰焼きおやきを作りました。講習会後には、蕎麦打ち講習会で打った蕎麦と灰焼きおやきを参加者全員で美味しく頂きました。

コロナ禍での自粛期間を経ての久しぶりの開催となり、老若男女合わせて30人以上の方々が参加され、楽しい一日となりました。次の一年も元気に過ごし、来年もこうしてまた伝統のしめ縄・そば・おやき講習会を開きたいと思えます。

日赤八坂分団の講習会が開催されました

日赤奉仕団八坂分団では、11月12日(日)八坂支所に於いて講習会を開催しました。講師に日本赤十字長野県支部の3名のアドバイザーの方を招き、避難所運営を考えるための、『避難所体験ゲーム』を受講しました。

参加者は、要援護者へ配慮、仮設トイレの設置、ペットへの対応、持病や障害を持つ方や認知症の高齢者への対応等にどのように対応するかを話し合いながら避難所運営を学びました。

なかでも、最初に情報共有や安否確認のための掲示板の設置と避難者の名簿を作成する事がいかに重要であるかという事を学びました。

どんな災害でも、発生してしまってからどう避難すべきか」と考えているのでは、間に合いません。日頃から頭の中でシミュレーションをしておく事が大切で、避難所運営には決めなければならない沢山の事があることを学びました。



たけのこ保育園

12月5日(火)に発表参観を行いました。4月から歌ってきた歌をグループごとに歌ったり、グリーンマンのピーマンマンの劇、きりん組さんのピアノ、タンバリンや鈴、手作りマラカスでの楽器あそび、ペアを組んでフォークダンスもして、盛りだくさんでした。

お客さんがたくさんいたので、緊張していかなくて思っていました。が、今までの中でいちばんのびのびとできました。本番はいろいろなハプニングもありましたが、ひとりひとりが主役になって、最後まで笑顔で楽しめてよかったです。友だちと力を合わせて成し遂げ、成長を感じました。これからも、いろいろなことに挑戦し、自信をつけ、大きくなっていってほしいです。



八坂小中学校 前期課程

大町市学校人権教育授業 公開・授業懇談会

十一月八日に、市内外小中学校・保育園・幼稚園・教育委員会の皆様方に来校していただき、授業参観と授業懇談会を行いました。授業は、一・二年生合同で「ふわふわ言葉とちくちく言葉」をテーマに、友だちを大切にしたい方を考える学習を行いました。参加された方からは、「一人一人が真剣に考える姿がとてもよかった。」「先生方が子どもの考えを認めていて、子ども一人一人を大切にしている気持ちが伝わった。」などと温かい言葉をいただきました。



授業参観

グラウンドコンディションが悪く、予定していたマラソン記録会は延期になりましたが、十一月十日は、二期の子どもたちの様子を授業参観していただきました。

3年生 「ぼく、わたしが〇〇しているとき」というテーマで国際理解に関わった道徳の授業を行いました。平和に暮らせないが、力強く生きている世界の子どもたちに心を寄せて考えることができました。



5年生 「お米作り」の活動のまとめとして「収穫祭」を行いました。お世話になった方々を招き、収穫したお米を使ってカレーライスなどを作って会食をしました。お米作りと人をもてなすことの大変さを学ぶことができました。



人権集会

十一月二十日は、なかよし月間の取り組みの一つとして、前期課程の児童全員が集まって人権集会を行いました。今回は「八十歳くらいのお年寄りは、どんなことで困っているか」について皆で考え合い、高齢者疑似体験セットを使って学習しました。振り返りでは、「お年寄りが困っていたら荷物を持ってあげたり、手を貸してあげたい。」という感想が子供たちから聞かれました。



八坂小中学校 後期課程

やさか人間塾での取り組みを発信

後期課程では、「やさか人間塾（総合的な学習の時間）」に、“八坂をPRしよう”“お世話になっているみなさんに恩返しをしよう”と一年間様々な活動を行っています。

十月十四日（土）

大田市文化公園芝生広場で行われた「つながるマルシェ」に参加してきました。八坂地区の方々にもご協力いただき、ブースを盛り上げていただきました。

STI部はイベントに参加して下さる八坂の方々との連絡調整を行いました。また、八坂マップを販売しました。

YDK部は立田屋さんとコラボしたラベンダークッキーとブルーベリーパウンドケーキを販売しました。

吉嵩販部は間伐材から制作したキーホルダーとコースターを販売しました。いどばた八坂の皆さんが作ったラベンダーサシェも大好評でした。お世話になった地域の方々本当にありがとうございました。



十月二十八日（土）

そよかぜ校舎で行われた八坂地区文化祭で販売活動を行いました。先日のマルシェに続いて2回目の活動となったので、少しずつ慣れてきた様子が見られました。たくさんの商品をご購入いただき、ありがとうございました。



コミュニティ・スクールだより

おらほの学校やさか



地域で子どもを育てるためのコミュニティ・スクールの集い

11月22日（水）に八坂学校運営協議会主催の「コミュニティ・スクールの集い」が開催され、子どもから大人まで68名と今までにない参加者でした。

地域の方々14名に加え、22名の八坂小中学校の児童、生徒も参加し、終始大変賑やかで和やかな空気の中、行なわれました。八坂小中学校に通う山村留学は全員参加していただきました。

はじめに、竹本明信学校運営協議会会長様にご挨拶いただき八坂小中学校の大滝校長先生からお話をいただきました。視察研修報告では、宮坂教頭先生より、「鳥取県江府町立奥大山江府学園」、平林先生より、「島根県隠岐郡海士町島前高校」の報告をいただきました。グループワークでは、「地域が一緒に子どもたちとできること」をテーマに話をいただき、各グループの代表者に発表していただきました。

これだけの子どもたちと一緒に話し合う時間をつくれたとても有意義な時間となりました。



～小学5年生 田んぼ活動記録～



稲刈り 9月27日(水)

学校支援ボランティアの北澤豊繁さんに稲刈りの仕方や稲の結び方を教わり、午前中作業を行いました。慣れた手つきで作業を行なう子どもたちも多く、作業もスムーズに進みました。刈り取った稲を藁で結ぶ作業は思った以上に難しく、苦戦しているようでした。その後、プールの柵一列にはぜひかけを行ないました。自分たちの手ですべての作業を行なっていくことの大変さを肌で感じた1日となりました。

脱穀 10月16日(月)

学校支援ボランティアの北澤豊繁さんや平林先生にご指導を受け、恵まれた天気の中、脱穀を行ないました。北澤さんから、「1本に何粒の実がついているのか調べてみよう！」と、一粒一粒数え、結果は、70粒から130粒でした。また一つお米の知識を身につけました。手、千歯こき、足踏み脱穀機と、3チームに分かれて脱穀を行ないました。昔の人の知恵で道具も進化してきたことが分かった子どもたちでした。精米した結果、45kgにもなりました！！精米したてのお米をみて、自分たちの活動が形になり、嬉しそうな5年生でした。

収穫祭 11月10日

収穫祭にむけて、子どもたちは、「販売チーム」、「料理チーム」に分かれて準備を進めてきました。販売チームは、販売するお米を「十三米」に決め、5年生全員(13名)で一生懸命作った、思いのつまったお米という意味合いが込められています。料理チームは、カレーライス、団子、お米アイスに決めました。あらかじめ、文化鍋でご飯を炊いたり準備万端です。当日、親子レクを兼ねた収穫祭スタート！段取り良く進めていきましたが、お米アイスを冷凍庫から出すのが遅く、悪戦苦闘しながら、容器に移す、子どもたちと保護者・それでもみんなでおいしくいただきました！

前期課程、後期課程合同初開催 ～郷土ふれあい体験学習～



12月2日(土)、「郷土ふれあい体験学習」をPTA、公民館、学校の三者共催による「コミュニティ・スクールの行事として開催しました。学校支援ボランティア、老人クラブ、八坂元氣会、地域から講師として昨年を更に上回る25名の方々にお越しいただき、全参加者158名での開催となりました。

今年から後期課程校舎を加えて、はじまり、終わりの会を前期課程校舎とアキツホールの3カ所に分かれて、オンラインで行いました。

体験学習は、昨年からブース増やし、7つのブースとし、「竹細工」、「灰焼きおやき」は、前期課程校舎、「木工ワークショップ」、「木工クラフト」、「青竜太鼓」は後期課程校舎、「わら細工」はアキツホール、「そば打ち、そば薄焼き」は体験館に分かれて行ないました。八坂小中学校最大の行事の一つとなっている郷土ふれあい体験学習は、

地域の方々の協力なくして行なっていくけません。地域交流のできる、地域を元気にできる大切な場となっていますので、これからも皆様のご協力をお願いいたします。

第48回 収穫祭

11月11日、12日の2日間にわたって第48回収穫祭を開催しました。ここ数年は感染症対策として、規模縮小としていましたが、今年度は山留センターを会場に、たくさんの方々をお招きできた収穫祭となりました。

1日目は感謝の式から始まりました。センターで行ってきた田畑の作業を農事暦として発表し、センター前庭に祭壇を設け、作物をお供えし、無事収穫できたことの報告とともに、自然の神様に感謝の気持ちを捧げました。午後には、個々の興味関心に基づき取り組んできた、個人体験の発表を行いました。多くの学園生が知識や技術を地域の方から教わり、支えてもらい、個性豊かな体験発表をすることができました。その後、全体発表として、太鼓や民舞も交えた創作劇を披露しました。多くの方々からお褒めの言葉をいただき、学園生たちの達成感にもつながったようでした。そして夜には保護者、農家さん方、大勢の山留OBも交えての会食会が開かれ、大変盛り上がりしました。

2日目は現役保護者が主体となった模擬店と、農家さんによる農産物の販売会が行われました。保護者による模擬店は、日頃お世話になっている地域の方々に恩返しをする場として、1か月以上前から打ち合わせを行い、準備が進められました。当日は不安定な天候にも関わらず、農家のご近所さんや、学校の先生、クラスメイトの家族などたくさんの方が遊びに来てくれて、大いに盛り上がりました。農家物産でも、スーパーでは買えない立派な収穫物や、ジャムや漬物など手の込んだ加工品が並び大盛況となりました。

たくさんのご来園ありがとうございました。改めて、多くの人に支えられて成り立つ山村留学だということを感じる収穫祭となりました。



八坂地区文化祭

八坂地区文化祭を10月28日(土)～29日(日)に、八坂小中学校前期課程校舎で開催しました。

展示作品では、行政展をはじめ、保育園展、小中学校展、書道展、陶芸展など多数の作品が展示されました。

ステージ発表では、山留太鼓の力強い演奏やアノアイカンパニーの踊りなど8組の方々の発表が行われました。

賑わい広場では、食べ物の販売や明日香荘の源泉を使った足湯コーナーなどが設けられました。

天候にも恵まれ、300人を超える来場者で賑わいを見せていました。

八坂秋まつり開催！

10月28日(土)八坂地区文化祭初日の夕刻八坂秋まつり実行委員会による「八坂秋まつり」が行われました。今年は体育館の中で、青竜太鼓の演奏、チンドン芸能社の余興そして、皆さんお待ちかねのお楽しみの抽選会を行いました。抽選会では番号を読み上げるたびに一喜一憂する子どもたちの声が上がり、大変盛り上がりました。

抽選会の後は、グランウンドに移動し、秋の夜空を彩る美しい花火を鑑賞しました。



八坂地区子育てセミナー 「親子で凧作り」

八坂地区子育てセミナーを11月18日に、八坂公民館とふるさと体験館で開催し、保育園児と小学生、その保護者31名が参加しました。今年、凧づくりと竹とんぼづくりを行いました。凧づくりは袖凧、四角凧、ダイヤ凧、スロー凧の中から作りたい凧を選んで、設計図を基に親子で協力しながら作成しました。最初はてこずっていましたが、運営委員に指導をいただきながら立派な凧が完成しました。竹とんぼづくりは、北澤豊繁さんを講師に迎え、竹を小刀で削り羽を作っていききました。何度も微調整をしながら作業を行い、こちらも良く飛ぶ竹とんぼが完成しました。ものづくりを通して親子で楽しくふれあえる時間になりました。



地域文化の伝承事業として、今年もそば打ち講習会を11月17日から5回に渡りふるさと体験館で開催しました。八坂産の風味のある新そばの粉を使った講習会で、人気のある講座のひとつです。講師は八坂元氣会のみなさんで、初心者の方でも優しく分かりやすく指導していただき、一人前になるにはまだまだ経験が必要ですが、そばを打って食へられるようになりました。美味しい八坂のそばが継承されていくことを今後も期待したいものです。



八坂塾「そば打ち講習会」

文化財巡り

11月11日(土)大田市文化財センターと共催により八坂塾「文化財巡り」を行い、市内外から30名の参加者が集まりました。

トレーニングセンターに集合して、車で笹尾峰まで移動しそこから徒歩で秋葉神社跡と城峰山城を見学しました。大平集落を望む景色が最高でした。次に作の平まで車で移動し、徒歩で城ヶ峰頂上(雷電城)を目指して山中を歩きました。立派な山城を見ることができました。参加者からは、楽しかった、良かったとの感想をいただきました。



「やさかだより」の発行が 100 号目となりました!!

2007 年 5 月 15 日付で第 1 号「(仮称)やさかだより」の発行が始まったやさかだよりが今月号で 100 号目となりました。



第 1 号では大平の「六日会」の活動を表紙と記事に取り上げました。
「六日会」の現在の活動状況を寄稿していただきました。

景観整備の引継ぎを

降旗 剛

県道の道路改良工事によってできた大曲地籍の空き地に花やツツジを植え、県道の美化活動を始め今年で 16 年になりました。

管理をしてきた「六日会」も平成の終わり頃に休会となり、現在は、二人で草刈り、剪定等の管理を行っています。

当時植えたツツジの花も、最近になりようやく白い綺麗な花を咲かせるようになりましたが、私共も高齢となり、今後の管理に不安を感じるようになり、管理をお手伝いいただける方がいればありがたいと思います。

川手地区有志ボランティア隊参上!!

新山くんは、5名の前期課程の子どもたちが野平地区にてゴミ拾いを行なっていました。5年生の新山おと春くん(地志原在住)の呼びかけに集まり、バス停や消防団詰め所の裏や国道沿いのゴミ拾いを2時間以上行ないました。



新山おと春君

たぐさんのゴミが集まり、中には、数年前のやまびこ祭のポスターなどありました。これで2回目のようなのでこれからも継続した活動になることを願っています!



編集後記

今年一年を振り返ると、新型コロナウイルス感染症の位置づけが変わり、少しずつ行事が復活して参りました。過去こんなにも暑く雨の少ない天候に悩まされたことはありませんでした。また野生鳥獣の頻繁な目撃と同時に獣害による被害が増加しています。

八坂の鹿はソバが好きで、新芽の始めから収穫するまで畑に入り浸り、対策の遅れているところは無残な状況です。それでも八坂ソバ組合では昨年同様の生産があり、明日香荘等に八坂産のソバ(黒いダイヤ)を供給しています。

今年あった厄や苦労を切り捨て、翌年に持ち越さない。そんな願いを込めて年越しソバを召し上がって頂けたらと思います。

切久保自治振興会

勝野正巳

